

西東京市立東伏見小学校

校長 中嶋 太

かけはし



学校HP

入学・進級、おめでとうございます

校長 中嶋 太

本日より、令和7年度がスタートいたしました。お子様の入学、進級、おめでとうございます。子どもたちは、新しい学年、新しい学級で、新しい仲間と共に、新たな希望に胸を弾ませていることと思います。ぜひ、お子さんの思いを受け止め、子どもがプラス思考になれるよう励ましていただけたら幸いです。今年度1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、学級開きに当たり、担任の教員に次の話をしました。

- ・最初の3日間で、子どもに「安心」を伝えましょう。(保護者の皆さんからも、ぜひ「〇〇先生でよかったね。」と子どもが前向きになれる言葉かけをするようお願いいたします。)
- ・最初の3週間で、子どもに「決まり」を伝えましょう。(ここでいう「決まり」とは、こういうことをすると認められる、こういうことをすると認められないという、言葉にできない人間関係のルールやマナーのことです。)
- ・最初の3か月間で、子どもと共に「創り合うよさ」を伝えましょう。(たとえ一つでも、みんなで創り上げる経験をつくることです。)

なお、ここでいう「3」には、大きな意味はありません。だいたいの目安として、話をしています。ぜひ、ご支援をお願いいたします。

西東京市平和の日

4月12日は、「西東京市平和の日」です。1945年4月12日に田無駅周辺で空襲があり、多くの方がお亡くなりになりました。そうした被害を忘れず、平和な社会に向けて思いを一つにするため、田無駅前に「平和のリング」が造られました。西東京市郷土資料室作成の資料によりますと、「4月12日午前11時50分、6個の1トン爆弾が投下され、田無駅周辺だけで、50人以上の人が亡くなりました。現在、平和のリングが建つ場所に落ちた爆風で、近くのコンクリート造りの防空壕がくずれ、中にいた31人が亡くなりましたが、女性1人が奇跡的に助け出されました。」と記されています。1トン爆弾とは、全長2m35cm、最大幅80cmの大きさで、その威力は幅30~40m、深さ11mほどの穴ができるほどだそうです。

今年の夏には、戦後80年を迎えます。80年前には、戦争があり、多くの市民が亡くなったり、多くの被害があったりしたなど、今では信じられないくらいです。それだけ、戦後約80年間で、多くの皆さんの不断の努力により平和な社会を築くことができたといえましょう。また、昨年12月には、日本原水爆被害者団体協議会が、ノーベル平和賞を受賞し、これまでの取組が世界から認められました。戦争経験者が少なくなる中、戦争の恐ろしさや平和の尊さを伝える重要さが、年々高まっています。

「温故知新」とは、昔のことから新しい知見を導くことです。私たちは、戦争の過ちから、未来に向けた新たな知見を見いだしていかなければなりません。そのためには、過去をしつかりと振り返り、後世へきちんと伝えていくことが大切です。「西東京市平和の日」に当たり、恒久平和を願わずにはいられません。

★4月 生活目標 「きまりをきちんとまもろう」

東伏見小学校には、仲良く、楽しい学校生活を過ごすための決まり「むらさきの子」があります。登下校や休み時間の過ごし方、持ち物など、自分で考えて行動することができるよう、指導してまいります。

生活指導部

